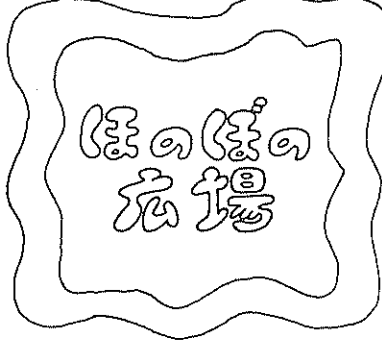


仲良しクラブ ダンス教室に思う

山本春子(立田)

五月十一日、第一回目のダンス教室を開く。集まる者三十名。うれしくて涙が出るほど感激した。五十歳以上を対象者として、健康作りのためのダンス教室である。公民館を教室とし、踊りながら親睦と和を深めストレス解消にも役立つと思う。

隅田先生の教え方も大変親切で親しみがわく。私のようにまったくダンスを知らない者も大半はいる。「一・二・三」と、まるで一年生に教えるような手ほどきに皆納得する。「次の日が待ち遠しい。おもしろかった」と、なかなか好評である。いつも踊ったり歌ったり



五月十八日雨。第二回目の教室の夜、降り続く雨に皆の出席が気になる。でも心配無用。皆にこころして集まってくる。A「こんな楽しいことはない」B「今晚は早く行こうと思う」一生懸命で仕事を「あれから毎晩毎晩お



健康づくりのダンスを楽しむクラブ員(立田公民館)

りしたことはない人も楽しげに踊る。初めての企画に、ほんとうに良かったと私はほっとする。この状態が続くまでも続いていると心より祈る。…これは私の日記の一部である。

竹島富枝さんと私は立田地区の健康作りの推進委員で、部落の者といっしょに楽しみなが何かをしないと選んだのがこのダンス教室。理解ある石川館長と森下さんの協力を得て、隅田先生と市の環境保健課、県の村上保健婦さんの指導の下に毎週土曜日ごとに開く。汗を流しながら軽やかなリズムに合わせて、きこちない体で「一・二・三」「一・二・三」と、まるで青春がよみがえったようである。青春がよみがえったようである。楽しく踊る姿——愉快でおいしいこともある。

五月十八日雨。第二回目の教室の夜、降り続く雨に皆の出席が気になる。でも心配無用。皆にこころして集まってくる。A「こんな楽しいことはない」B「今晚は早く行こうと思う」一生懸命で仕事を「あれから毎晩毎晩お

教室の場。意外にも年配者が楽しみと幸せをかみしめているのに驚く。あるクラブ員の会話。嫁が勤めにした後、野外で孫のお守役のおばあちゃん二人「昨夜習った踊りの復習をしていたら、いつの間にか孫が見えなくなつてびっくり。探し回った」と言つて大笑い。聞く者もつい大笑いの中へ溶け込んでいく。

特に私のうれしいことは、七組の夫婦が仲むつまじく手を組んで踊っている姿である。戦中、戦後の苦難の生活にも堪え、年輪のしわも今ではえくぼに変わり、これからはおれについてこいと、リードしている姿こそ自然に目頭が熱くなり、胸を締めつけられるような思いがする。十年前に亡くなった主人の面影がちらつと脳裏をかすめる。なかに戦争未亡人もいる。残された人生を健康で明るく送りたいと、皆のささやかな願いである。

親子のふし 104

ご家庭で話し合つて答えてください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・八月十四日から三日間、大滝地区公民館で市民○○が開かれました。

■しめきり・9月15日

■あて先・〒783 南門市大埔甲三三〇一 南門市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

- 第10回当選者発表(敬称略)
- (応募総数40通)
- 答え・A
- 当選者五人
- 門田幸俊(植田)
- 山本茂充(小笠)
- 浜田昌代(里改出)
- 浜口英子(里改出)
- 佐藤恵理(岡豊町)

釣りの秘訣 パートV 釣りのエピソード…自慢話①

浜田広信(植田)



逃げた魚に小さいものなし。相撲取りに負けた話がなく、若いころは米二俵(百二十斤)を担いだと、力自慢をする。

私も釣りを始めて以来「逃げた魚は太かった。惜しいことをした」と残念がったものである。

ある年、板垣前でスズキ釣りをしていたときのことである。前回は古い糸を失敗したので、新たに五号の道糸に同じくハリスを五号寸二の丸針。これならいかなる大物がきてもだいじょうぶと八号式で流していた。ツンとあたりがあったので竿を大きく上げてしゃくったところ、なかなか舟の方へ向いて来ない。これは大物だと感じた。

潮の流れは速い。舟は魚と反対の方にどんどん流れ、見れば道糸が巻き枠に少なくなつていた。これが大変だと思つた瞬間、糸はブ

ンと切れた。それが最後だ。大物を逃がした。四、以上の大物であったと残念。今でも手へしげびついている。始めに書いた通り、糸がだいじょうぶと過信したのが誤りであった。

帰つて隣の漁師さんに話した。「それは惜しいことをした。板垣前は浅くて狭い所(今は広い)であるから、そのようなときには竿もろとも海に投げたらどこかへ竿が浮いて取れたかもしれない」と残念がってくれた。

次は魚は取ったが、瞬にして箱に食われた話。

高知市に住んでいたときのことである。一夜、スズキを釣ってきた。そして家内に料理の方法を教えて出勤し、うまい魚が食べられると楽しんで帰つたところ、家内が「やられた」と、わびを言う。



虎毛の猫をモデルにするなどしてかわいがつていた。その猫が同志の三匹の猫とともに侵入し、これはうまいと腹いっぱい食い、ごちそうさまと言わんばかりに自宅を舌をなめてぼろぼろになっている。階から眺めた。やられた。

南国歌壇

五百ミリのコーラ一気に飲みほせる 少年の熱き硬貨うけとる

立田 島田美津子

一片の花びらのごとく散らしめて 学徒で征きし従弟は還らず

植野 中司愛子

一方に靡き伏したる八束穂に 尚も降り来る無情の雨かも

池田小村

植林に来てびびく潮よ執拗に 手入れに來いし父の声やも

三島 小笠原綾子

十余年経たるわが家の天井に 今も残り水禍の泥あと

亀岩 島本 栄

いにしえの詩きこえくる 早明浦のダム放水し夏遠くなり

碩石 唐岩 勇

南国柳壇

朝早く今日も昇るか蟬の声 里改田 下総金子

川やせて豊かな流れ懐かしむ 後免町 隅田俊作

夢暗けて今年も贈るお中元 十市 沢村鶴一

我が影をとらえに走る坊や三歳 立田 清岡照子

南国俳壇

熊面の少し唇、開くヒロシマ思 大島新草 岩村句会

遠景のものばかり見て虹の後 横田明義

熱帯夜枕の中、蟻を飼う 和田幸郎

送り火や水棚焼いて取巻をり 養父佳代 養父句会

肩よせて一つ日傘の老夫婦 吉川 妙

大書院梅雨だるみせし障子かな 林 広裕

郵便車入道雲に消えてゆき 鍋島幸夫 福生葉月会

深緑五十路の句友逝きにけり 浜田美知

籠枕あどつきりと夫の顔 沢本吉子